

# 11 農業農村地域活動支援

農業農村の将来を考えるワークショップ、都市と農村の交流の取り組みなど、農業農村に関する地域活動の支援を行っています。

## 事例 中山間地域等の集落活性化のための支援

宮城県では平成28年度から、中山間地域等の集落活性化のため、援農ボランティアや都市農村交流の受け入れ体制づくり等の支援を行っています。栗原市金成有壁地区では、地区を活性化していくため、農地整備事業関係者と地域住民等が会員となり組織された「有壁創成会」により令和3年10月10日に「ねじりほんによコンテスト」が開催されました。当日は、地元農家の方を講師に22名の参加者がねじりほんによの作成に汗を流しました。本地区では、地区内外の交流人口を増やし、地域集落を維持していくため、今後も様々なイベントの計画を検討しています。



ねじりほんによコンテスト

# 12 広報広聴活動

農業農村整備部の取り組みについて一般の方に紹介するための活動を行っています。

## 事例① 広報紙「ほくぶNNだより」、 「栗原NN通信」の発行

北部地方振興事務所、栗原地域事務所ではそれぞれで広報紙「ほくぶNNだより」、「栗原NN通信」を発行しており、管内の事業実施地区の紹介や、農業農村整備事業に関する地域活動、イベントの様子等を紹介しています。

「ほくぶNNだより」、「栗原NN通信」は県のホームページから閲覧できます。



「ほくぶNNだより」



「栗原NN通信」

## 事例② 「田んぼダム導入促進・効果検証モデル事業」のPR活動

宮城県では、令和3年度から洪水被害を緩和する「田んぼダム」の効果を検証するため、農地整備事業千刈江地区をモデル地区に設定し、ロート型田んぼダム堰板を導入して効果を検証しています。

田んぼダムの取り組みにより、上流の田んぼに一時的に雨水を溜めることで、下流の急な増水を抑えられ、農地や市街地の洪水緩和、排水機場や排水路への負担軽減、転作作物の湛水被害の軽減が期待できます。

広報・広聴活動の一環として、令和3年度は学生を対象とした千刈江地区の現地見学や出前講座等を実施することで、田んぼダムの効果を県民へPRし、田んぼダムに対する県民理解の向上に努めました。



古川黎明中学校  
田んぼダム現地見学会



小牛田農林高等学校  
田んぼダムに関する講義

## 事例③ 世界農業遺産「大崎耕土」巧みな水管理施設のPR

平成29年12月12日、「大崎耕土の巧みな水管理による水田農業システム」が国連食糧農業機関 (FAO) により世界農業遺産に認定されました。

世界農業遺産は、世界的に重要かつ伝統的な農林水産業を営む地域 (農林水産業システム) を国連食糧農業機関 (FAO) が認定する制度です。世界で22ヶ国62地域、日本では11地域が認定されています (令和3年11月現在)。

北部地方振興事務所農業農村整備部では、大崎耕土にある巧みな水管理施設の歴史や現在の地域での取り組みをまとめ、「水物語」として県のホームページに掲載しています。



南原穴堰  
(大崎市)

蟬堰 (加美町)



## 表紙の写真

表紙の写真は、高城地区でのごぼうの収穫の様子を撮影したものです。

高城地区は、加美郡色麻町に位置する令和4年度完了予定の農地整備事業地区です。

この地域の特産である「高城ごぼう」は、一度、生産が途絶えていましたが、農地整備事業を契機に法人化した担い手により作付が再開されました。秋には法人の直売所や地域の祭りで販売され、一般的なごぼうよりも柔らかく香り高いことから人気を集めています。

